

# 行政視察報告書

令和6年10月31日

長浜市議会議長 高山 亨様

長浜市議会議員

藤井 登

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 視察等名 健康福祉常任委員会行政視察
2. 視察期間 令和6年10月21日(月)～10月22日(火)
3. 視察場所及び目的
  - ①埼玉県入間市 児童発達支援センターについて
  - ②愛知県知多市 認知症について
4. 調査内容感想等

### ①埼玉県入間市 児童発達支援センターについて

#### ・視察の目的

本視察の目的は、児童発達支援センターの運営状況を視察し、福祉・教育・子育てが一体化した支援の具体的な取組について学ぶことです。また、発達支援の相談窓口や情報管理の仕組み、地域連携の状況を把握し、本市の児童福祉施策における課題解決の参考とすることを目的とします。

#### ・視察の内容

##### (1) 児童発達支援センターの基本方針と事業の運営状況

- 相談支援事業、児童発達支援事業、地域支援事業の3つの事業を軸とし、相談窓口を一本化している。

- 医師や作業療法士、保健師、心理士など、多職種が連携し、発達に不安を持つ子どもとその家族を包括的にサポートしている。

(2) 相談支援事業

- 各部門が協力し、誰もが気軽に立ち寄り相談できる環境を整備している。
- 一般的な子育て相談から専門的な相談まで、段階に応じた支援を実施しており、医療機関や教育機関へのスムーズな連携が図られている。

(3) 児童発達支援事業

- 未就学児を対象とした「元気キッズ」プログラムでは、発達段階に応じて親子通所や単独通所が行われている。
- 0～2 歳児、3～5 歳児、重症心身障害児など、対象に応じた細やかな支援体制が構築されている。

(4) 地域支援と地域連携

- 地域の保育所、幼稚園、小学校を訪問し、集団生活への適応が難しい子どもへの支援を提供している。
- 保護者へのレスパイトケア(介護をする側の人たちが一時的に介護状況から離れて休息を取ること)も実施し、家庭内での育児負担軽減にも配慮している。

(5) 支援情報の一元管理と切れ目ない支援

- 子どもの発達情報を一元的に管理し、ライフステージが変わっても連続性のある支援が受けられるような仕組みを構築している。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

医療・教育・福祉の各分野が一体となり、市民がスムーズに相談できる仕組みを構築します。また、専門職が連携する体制を強化し、より質の高い支援を提供します。

子どもの成長に伴う支援が途切れないよう、保育所や学校など関連機関との情報共有を一元化し、一貫性のある支援体制を整備します。さらに、地域全体が協力して子どもと家庭を支える環境を育むとともに、保護者の負担軽減に向けた支援策を拡充します。

加えて、市民が必要な支援に迅速にアクセスできるよう、情報提供の充実を図ります。具体的には、パンフレットやウェブサイトなどを活用し、利用者が迷うことなく適切なサービスを受けられるよう取組めます。

最後に、事業の進捗や成果を定期的に見直し、効果的な施策を継続的に改善し

ていきます。その際、利用者の声を積極的に取り入れ、地域の実情に即した対応を心がけます。

本市は既に多くの先進的な取組を展開しており、これらの施策をさらに深化させることで、持続的な発展を目指していきます。



埼玉県入間市役所

## ②愛知県知多市 認知症について

### ・視察の目的

本市においても、認知症の当事者やその家族が安心して暮らし続けられる社会の実現を目指し、「認知症とともに生きる基本条例」の制定を進めています。今回の視察では、条例の策定・施行プロセスに関する他市の先進事例を学ぶことに加え、地域社会における認知症への理解促進や支援体制の充実を図るため、認知症全般についての取組を調査することを目的とします。

### ・視察の内容

今回の視察では、知多市の「認知症高齢者等あんしんネットワーク事業」を通じて、地域全体で認知症高齢者を支える具体的な取組を確認しました。この事業は、認知症高齢者やその疑いのある方が安心して生活できるよう、市、関係機関、地域が連携して日常的な見守りや声かけを行うとともに、行方不明時の早期発見・保護を目的としています。

事業の一環として、「あんしん見守り賠償責任保険」が導入されており、日常生活で

高齢者が他者に損害を与えた場合、市が契約者として補償を提供しています。また、「見守りシール」は高齢者の衣類などに貼り付けられ、QRコードを通じて保護者と家族を迅速につなぐ仕組みが構築されています。これにより、行方不明時における情報共有と対応が円滑に行われ、個人情報保護にも配慮されています。

さらに、市民参加を促進するため、メールマガジンを活用し、行方不明時の検索依頼や認知症関連の情報を配信する取組も実施されています。このような地域全体の見守り体制により、市民一人ひとりが支援に関わりやすい環境が整備されている点が特徴です。

次に事前質問に対する回答を報告します。

ちた・あんしん見守りネットの概要と活動

#### 1. 運用状況と支援体制

- 認知症高齢者等の見守りを目的とし、関係機関との連携を強化。
- 登録者には、行方不明時の迅速な検索支援が提供され、防災無線を活用。
- 希望者には「見守りシール」や「賠償責任保険」を利用する仕組みが整備。

#### 2. 不明時の対応

- 家族からの依頼で警察や関係機関に検索協力要請を行い、メルマガで情報提供。
- 登録者の写真や特徴を事前に共有し、迅速な発見を促進。

#### 3. 賠償責任保険の内容と利用状況

- 認知症高齢者が他人に損害を与えた際に補償を行う保険を市が契約し、家族の安心感を提供。
- 民間企業との協力で見守り活動も推進。

#### 4. 見守りシールの普及状況と効果

- シールの QR コードを使い、発見者と家族が迅速に連絡を取り合う仕組み。
- 参加者からは「蓄光タイプが使いやすい」との声もあり。

#### 5. 認知症サポーター養成講座

- 医療・介護事業所や学校向けの講座を実施し、地域全体で認知症理解を促進。
- 今後の改善点として、認知症基本法の内容を講座に反映。

## 6. 認知症基本条例の制定プロセスと周知活動

### (1)制定時の重点課題

- 認知症初期集中支援チームと専門医の意見を参考に条例を策定。
- 地域活動や認知症カフェの協力体制を条例に反映。

### (2)条例施行後の啓発活動

- コロナの影響で講演会が中止されたが、ホームページや関係者向け研修で条例の周知を実施。

### (3)条例施行の成果と地域への影響

- 具体的な変化や成果は見えにくいですが、今後の運用に向けた整理が必要。

視察を通じて、認知症高齢者の安心安全な生活を支えるためには、市民や関係機関の連携が不可欠であることを学び、地域全体で協力することの重要性を改めて確認しました。

### ・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

今回の行政視察を踏まえ、本市では認知症支援を中心に、地域全体で支え合う体制の強化をさらに進めていきます。市民や専門家から幅広く意見を集め、多様な関係者が協力し、実効性のある施策を推進することで、地域に根ざした支援を展開します。本市ではすでに、他地域の先進事例を超える取組を行っており、これまでの成果を土台にしながら、より一層効果的な支援体制を整えていきます。

認知症支援では、「予防」を重視し、早期の段階から発症リスクを減らす取組を強化します。具体的には、保健・福祉・医療の連携を通じて、認知症チェックや予防プログラムへの参加を促し、住民一人ひとりが健康的な生活を維持できるよう支援します。また、認知症支援チームや医療専門職と連携したワークショップを開催し、具体的な実施計画を策定することで、効果的なサポートを提供します。

さらに、認知症と診断された後も、生活の質を維持できるよう、地域での見守りネットワークを強化します。家族や支援者に対するレスパイトケア(介護や育児など、普段誰かのケアを行っている人が休息できるよう支援すること)の充実にも取組、介護負担を軽減する環境づくりを進めます。情報発信については、講演会や研修会に加えて、オンラインイベントや SNS を活用し、感染症などの影響下でも必要な支援が途切れないよう工夫を凝らします。

今後も、計画の進捗を定期的を確認し、現場のニーズを迅速に反映させながら、常に改善を図ります。本市はすでに多くの面で先進地域に劣らない取組を実施していますが、引き続き市民・専門家・関係機関との連携を深め、長浜市ならではの強みを活かした地域社会の発展を目指してまいります。



愛知県知多市役所